



旭が丘小学校だより

令和4年8月9日 15号

文責 校長

77年目の夏 長崎原爆の日

8月9日は、被爆地長崎にとって77年目の夏です。長い年月を経ても今なお、原爆投下が多くの人々を苦しめています。そして現在、信じられないことですが世界では戦争状態が続いており、核兵器の使用を否定できない事態もあると言われていています。旭が丘小学校の子どもたちを含め、世界の子どもたちが未来を失うことを決して見逃すことはできません。世界にはいつの間にか保身や利益のために動く人が多くなってきました。他を受け入れず、自身の解釈だけでものごとを考えてしまうと、人は間違いを起こします。間違ってもそのような人づくりをしてはいけません。

今年度、本校では「人権」「平和」をキーワードにした取り組みを積極的に取り組むようにしています。理由は上記のような日本や世界の情勢、そして学校の課題があるからです。その課題とは、

- ① 言葉づかいに対する配慮が足らず、子どもたちの関係作りに影響を与えていること

→旭が丘小学校「ことばの違反とりしまります！」※右参照

- ② もう一步読み取ったり考えてみたりする思考の育成が必要であること

- ③ 多様性に対する意識が薄いこと

→違うこと、異なることを受け入れにくい傾向がある

- ④ 自己肯定感が低いこと →どうせ自分は…という意識の子が少ない

もちろん旭小の子どもたちには、魅力あふれる子ばかりです。ただ、「人権」「平和」の芽をしっかりと芽吹かせるためにも、考えさせる事を中心にした、課題に目を背けない継続した指導が必要であると思っています。

本日、平和集会の校長講話で考えさせたことは、○戦争（原爆で）亡くなった人々はどんな人たちなのか、○戦争を引き起こすのは人間、私たち人の心であること、○戦争の種となる「いじめ」「いやがらせ」、○平和な未来を作る主人公は子どもたち自身であること、です。各学年や学級で実態に応じて学習をしています。ご家庭でも本日、学校でどんなことを学んだのか話題にしていれば幸いです。



＜夏休み、もう半分に、＞

いやまだ半分ある＞

サザエさんの磯野かつおくんが、夏休みの終わる直前に、家族に宿題を助けてもらうというエピソードは有名です。私もそうでした。でもせっかくなら、慌てて笑顔を無くしたまま2学期を迎えるよりも、計画的に備えたいですね。

まだまだ時間はあります。作品応募に挑戦する等チャレンジも含めて取り組ませて下さい。

～「人権の花」咲きました～

長崎県人権擁護団体の皆様からいただいたひまわりの花が咲いています。3年生が担当し、育ててくれました。ひまわりの花のように、太陽に向かって真っすぐと生きたいですね。

